ONKYO

パワードスピーカーシステム

GX-70HDⅡ

取扱説明書

お買い上げいただきまして、ありがとうございます。
ご使用前にこの「取扱説明書」をよくお読みいただき、正しくお使いください。
お読みになったあとは、いつでも見られる所に保証書とともに大切に保管してください。

安全上のご注意（必ずお読みください） 2
主な特長 4
各部の名前と働き 5
左右のスピーカーを接続をする 6
外部機器との接続のしかた
サブウーファーとの接続のしかた 7
電源を入れる
グリルネットの脱着
設定について 8
取り扱いについて 9
困ったときは
主な仕様 10
修理について 11
ご相談窓口・修理窓口のご案内 裏表紙

安全上のご注意
安全にお使いいただくため、ご使用の前に必ずお読みください。

電気製品は、誤った使いかたをすると大変危険です。
あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、「安全上のご注意」を必ずお守りください。

「警告」と「注意」の見かた
間違った使いかたをしたときに生じることが想定される危険度や損害の程度によって、「警告」と「注意」に区分して説明しています。

⚠警告 誤った使いかたをすると、火災・感電などにより死亡、または重傷を負う可能性が想定される内容です。

⚠注意 誤った使いかたをすると、けがをしたり周辺の家財に損害を与える可能性が想定される内容です。

絵表示の見かた

△記号は「ご注意ください」という内容を表しています。

高温注意　感電注意

⃠記号は「〜してはいけない」という禁止の内容を表しています。

分解禁止　ぬれ手禁止

●記号は「必ずしてください」という強制内容を表しています。

電源プラグをコンセントから抜く　必ずする

⚠ 警告

故障したまま使用しない、異常が起きたらすぐにアンプの電源プラグを抜く

電源プラグをコンセントから抜く

- 煙が出ている、変なにおいや音がする
- 本機を落としてしまった
- 本機内部に水や金属が入ってしまった

このような異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに電源プラグをコンセントから抜いて販売店に修理・点検を依頼してください。

分解、改造しない

分解禁止

火災・感電の原因となります。
内部の点検・整備・修理は販売店に依頼してください。

接続、設置に関するご注意

■放熱を妨げない

禁止

- 押し入れや本箱など通気性の悪い所に設置しない（本機の天面、横から 20cm 以上、背面から 10cm 以上のスペースをあける）
- 逆さまや横倒しにして使用しない
- 布やテーブルクロスをかけない
- じゅうたんやふとんの上に置いて使用しない

■水蒸気や水のかかる所に置かない、本機の上に液体の入った容器を置かない

水場での使用禁止

水濡れ禁止

本機に水滴や液体が入った場合、火災・感電の原因となります。

- 風呂場など湿度の高い場所では使用しない
- 調理台や加湿器のそばには置かない
- 雨や雪などがかかるところで使用しない
- 本機の上に花びん、コップ、化粧品、ろうそくなどを置かない

電源コード・電源プラグに関するご注意

■電源コードを傷つけない

禁止

- 電源コードの上に重い物をのせたり、電源コードが本機の下敷にならないようにする
- 傷つけたり、加工したりしない
- 無理にねじったり、引っ張ったりしない
- 熱器具などに近づけない、加熱しない

電源コードが傷んだら（芯線の露出・断線など）販売店に交換をご依頼ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

使用上のご注意

■本機内部に金属、燃えやすいものなど異物を入れない

禁止

火災・感電の原因となります。特に小さなお子様のいるご家庭ではご注意ください。

- 本機のダクトから異物を入れない。

■長時間音がひずんだ状態で使わない

禁止

アンプ、スピーカーなどが発熱し、火災の原因となることがあります。

■雷が鳴りだしたら本機、接続機器、接続コード、電源プラグに触れない

接触禁止

感電の原因となります。

■長期間大きな音で使用しない

禁止

本機をご使用になる時は、音量を上げすぎないようにご注意ください。耳を刺激するような大音量で長期間続けて使用すると、聴力が大きく損なわれる恐れがあります。

⚠ 注意

接続、設置に関するご注意

■不安定な場所や振動する場所には設置しない

禁止

強度の足りないぐらついた台や振動する場所に置かないでください。
本機が落下したり倒れたりして、けがの原因となることがあります。

■本機の上に10kg以上の重いものや外枠からはみ出るような大きなものを置かない

禁止

バランスがくずれて倒れたり落下して、けがの原因となることがあります。また、本機に乗ったりしないでください。

■配線コードに気をつける

注意

配線された位置によっては、つまずいたり引っかかったりして、落下や転倒など事故の原因となることがあります。

電源コード・電源プラグに関するご注意

■表示された電源電圧(交流100ボルト)で使用する

必ずする

本機を使用できるのは日本国内のみです。
表示された電源電圧以外で使用すると、火災・感電の原因となります。

■電源コードを束ねた状態で使用しない

禁止

発熱し、火災の原因となることがあります。

■電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らない

禁止

コードが傷つき、火災や感電の原因となることがあります。
プラグを持って抜いてください。

■長期間使用しないときは電源プラグをコンセントから抜く

電源プラグをコンセントから抜く

絶縁劣化やろう電などにより、火災の原因となることがあります。

■電源プラグは、コンセントに根元まで確実に差し込む

必ずする

差し込みが不完全のまま使用すると、感電、発熱による火災の原因となります。
プラグが簡単に抜けてしまうようなコンセントは使用しないでください。

■ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない

ぬれ手禁止

感電の原因となることがあります。

■お手入れの際は電源プラグを抜く

電源プラグをコンセントから抜く

お手入れの際は、安全のため電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。

使用上のご注意

■音量を上げすぎない

禁止

- 突然大きな音が出てスピーカーを破損したり、聴力障害などの原因となることがあります。
- 始めから音量を上げ過ぎると、突然大きな音が出て耳を傷めることがあります。音量は少しずつ上げてご使用ください。

■キャッシュカード、フロッピーディスクなど、磁気を利用した製品を近づけない

禁止

磁気の影響でキャッシュカードやフロッピーディスクが使えなくなったりデータが消失することがあります。

移動時のご注意

■移動時は電源プラグや接続コードをはずす

必ずする

コードが傷つき火災や感電の原因になります。

■本機の上にものを乗せたまま移動しない

禁止

本機の上に他の機器を乗せたまま移動しないでください。
落下や転倒してけがの原因となります。
グリルネットやスピーカーユニット部を持って移動させないでください。

■機器内部の点検について

お客様のご使用状況によって、定期的に機器内部の掃除をお勧めします。本機の内部にほこりのたまったまま使用していると火災や故障の原因になることがあります。特に湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。内部清掃については、販売店にご相談ください。

主な特長

■ 低歪率で、かつHD再生対応の“NEW（ニュー）”ハイクオリティーアンプ（11W+11W）搭載

■ OMF（ONKYO（オンキヨー） Micro（マイクロ） Fiber（ファイバー））ダイヤフラム採用

高級機にも採用しているOMFダイヤフラムをウーファー部に採用し、低音をクリアでリアルに再生することができるアンプ内蔵のスピーカーシステムです。

• OMF®の名称、ロゴはオンキヨー（株）の登録商標です。

■ 2系統の入力端子装備

2系統の入力端子を備えていますので、片方の入力をコンピューターの音声出力端子に接続し、もう片方をオーディオ機器に接続するなどの使いかたができます。ミキシングボリュームツマミで2つの入力の音量バランスを調整することも可能です。

■ サブウーファー端子装備

サブウーファー端子を備えていますので、本機とお手持ちのアンプ内蔵サブウーファーとを接続することにより、さらにクオリティの高い低音を再生することができます。

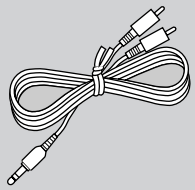
■ 100kHzまで再生できるツィーターで伸びのある高域再生

■ ノイズを低減するSラインエッジ

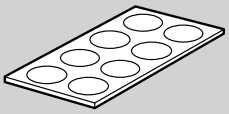
■ バス、トレブル調節ツマミ

■ 硬度が高く響きの良いMDF木製キャビネット

付属品　ご使用の前に次の付属品がそろっていることをお確かめください。（　）内の数字は数量を表わしています。



• 接続コード（1）
〔RCA ステレオピンプラグ⇔
ステレオミニプラグ変換コード（1.5m）〕



• スペーサー（8）

• スピーカーコード 1.5 m（1）

• 取扱説明書（本書 1）　• 保証書（1）

カタログおよび包装箱などに表示されている型名の最後のアルファベットは製品の色を表す記号です。色は異なっても操作方法や仕様は同じです。

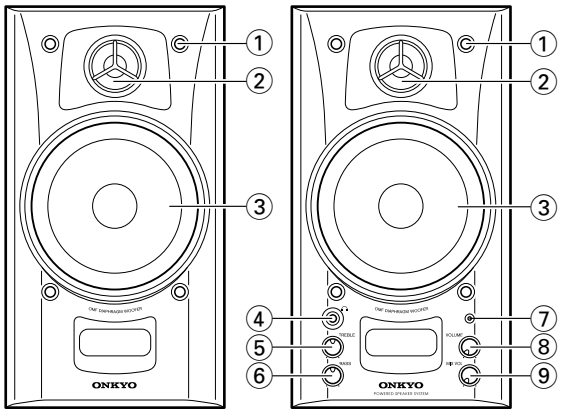
音のエチケット

楽しい映画や音楽も、時間と場所によっては気になるものです。
隣近所への配慮を十分しましょう。特に静かな夜間には窓を閉めるのも一つの方法です。
お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

各部の名前と働き

前面パネル

左チャンネル用スピーカー　右チャンネル用スピーカー



① **グリルネット取り付けホルダー**

② **ツィーター**

③ **ウーファー**

④ **ヘッドホン端子（ヘッドホンズ）**
ヘッドホンやイヤホンを接続します。接続するとスピーカーからの音は聞こえなくなります。

⑤ **トレブルツマミ（TREBLE）**
高音の再生レベルを調整します。ツマミを右に回すと再生レベルが大きくなります。中央でフラットになります。

⑥ **バスツマミ（BASS）**
低音の再生レベルを調整します。ツマミを右に回すと再生レベルが大きくなります。中央でフラットになります。

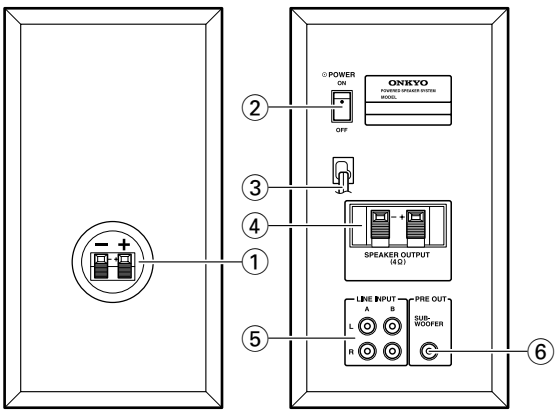
⑦ **パワーインジケーター**
背面の電源スイッチを「ON」にすると点灯します。

⑧ **ボリュームツマミ（VOLUME）**
音量を調整します。右に回すと音量レベルが大きくなります。

⑨ **ミキシングボリュームツマミ（MIX VOL.）**
背面の入力端子 A、B から入力される音量レベルのバランスを調整します。左に回すと A 端子からの音量、右に回すと B 端子からの音量レベルが大きくなります。
A 端子のみの入力の場合は、左いっぱいの位置（A）に、B 端子のみの入力の場合は、右いっぱいの位置（B）にしてください。

背面パネル

左チャンネル用スピーカー　右チャンネル用スピーカー



① **スピーカー端子**
右チャンネル用スピーカーのスピーカー出力端子と接続します。

② **電源スイッチ（POWER）**
本機の電源をオン / オフします。

③ **電源コード**

④ **左チャンネル用スピーカー出力端子（SPEAKER OUTPUT）**
左チャンネル用のスピーカー端子と接続します。

⑤ **信号入力端子（LINE INPUT）**
本機に信号を入力するための端子です。RCA ピンプラグタイプの接続コードで接続します。

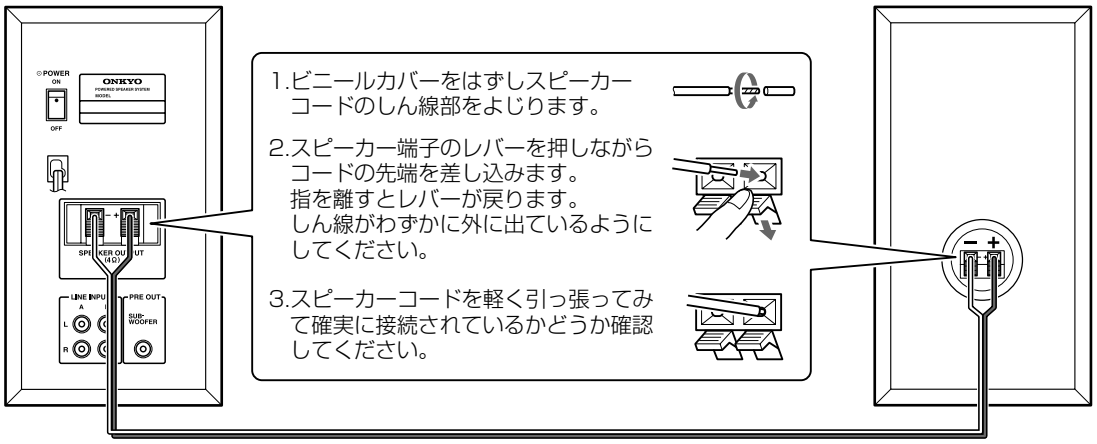
⑥ **サブウーファー出力端子（PRE OUT SUBWOOFER）**
お手持ちのアンプ内蔵サブウーファーを接続するための端子です。

スピーカーユニット（ウーファー、ツィーター）部には触れないでください。
特に本機のツィーターの振動板には非常にデリケートな材料が使われています。物があたったり、手で触れると破損する恐れがありますので、取り扱いには十分注意してください。

左右のスピーカーを接続する

- 付属のスピーカーコードで左チャンネル用スピーカーと右チャンネル用スピーカーを接続します。
- 右チャンネル用スピーカーのプラス ⊕ と左チャンネル用スピーカーのプラス ⊕ を、右チャンネル用スピーカーのマイナス ⊖ と左チャンネル用スピーカーのマイナス ⊖ を接続します。

右チャンネル用スピーカー　　左チャンネル用スピーカー

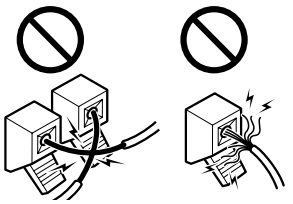


ご注意

- すべての接続が終わるまで、電源プラグをコンセントに差し込まないでください。
- 電源を入れる前には、必ずボリュームツマミを左に回して最小の位置にしておいてください。また、本機に接続する他の機器の電源も入れないでください。
- 「左チャンネル用スピーカー出力端子」は左チャンネルスピーカーを接続する専用の端子です。他のスピーカーやアンプは接続しないでください。

危険

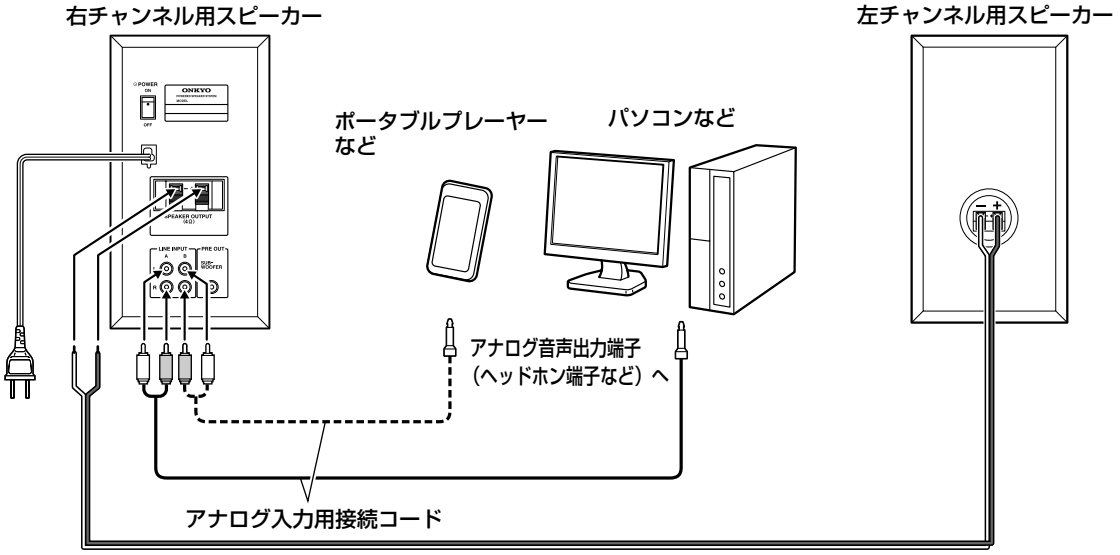
- **回路の故障を防ぐため、スピーカーコードのしん線のプラス⊕とマイナス⊖あるいはLとRなどを絶対に接触させないでください。また、アンプのリアパネルにも触れないように、ご注意ください。**
- **スピーカーコードは、しっかりとよじってください。銅線がアンプのリアパネルに触れると、ショートする原因となります。**



外部機器との接続のしかた

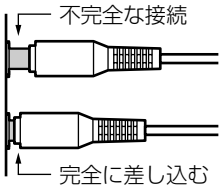
本機には 2 つのアナログ入力端子があり、2 種類の音声機器や PC（コンピューター）機器を接続することができます。

オーディオ機器、コンピューター本体またはサウンドボードのアナログ音声出力端子と本機の A または B を付属の接続コードで接続します。（R 端子には赤いプラグを、L 端子には白いプラグを差し込んでください）



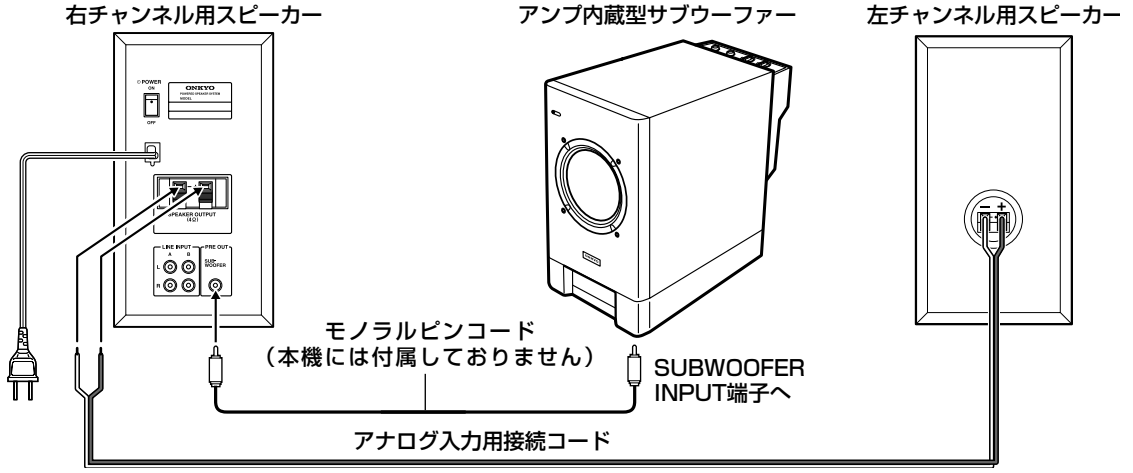
ご注意

- コードのプラグはしっかりと奥まで差し込んでください。接続が不完全だと、雑音や動作不良の原因になります。
- 接続コード類と電源コードは、いっしょに束ねないでください。音質が悪くなることがあります。
- すべての接続が終わるまで、電源プラグをコンセントに差し込まないでください。



サブウーファーとの接続のしかた

サブウーファーは、メーカー、機種により入力感度が異なります。ご使用になるサブウーファーによりレベルを調整し、お楽しみください。

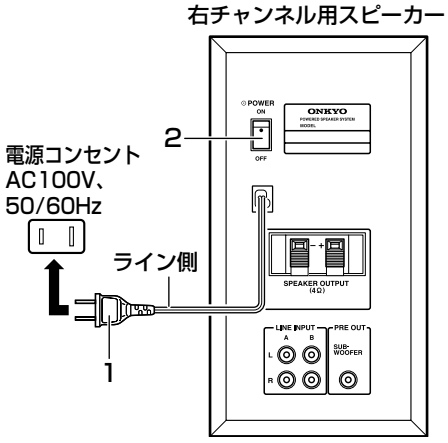


ご注意

- サブウーファー出力端子（PRE OUT SUBWOOFER）と、サブウーファーの入力端子をモノラルピンコードで接続してください。（本機には付属していません。）
- 電源を入れる前に、サブウーファーのボリュームを必ず最小の位置にしておいてください。
- すべての接続が終わるまで、電源プラグをコンセントに差し込まないでください。

電源を入れる

すべての接続が完了してから、右チャンネルスピーカーの電源プラグをコンセントに接続してください。



1.電源コードをつなぐ
電源コードのプラグをコンセントに差し込みます。

！ヒント

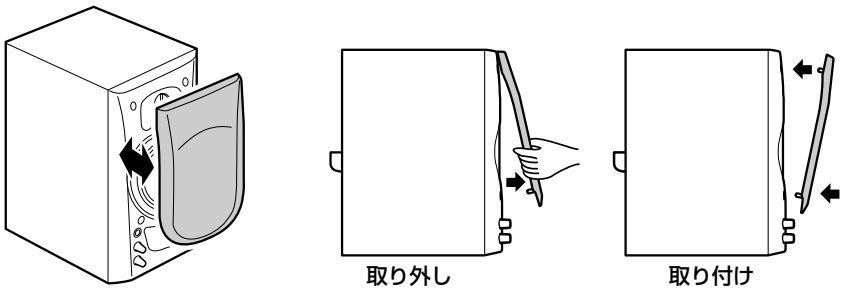
よりよい音で聞いていただくために
本機の電源コードは極性の管理がされています。
電源コードの片側にラインまたは文字の入っている側を家庭用電源コンセントの溝が長い方に合わせて差し込んでください。家庭用電源コンセントの溝の長さが同じ場合はどちらに接続してもかまいません。

2.電源を入れる
背面パネルの電源スイッチを「ON（オン）」側にしてください。
前面のパワーインジケーターが点灯します。

グリルネットの脱着

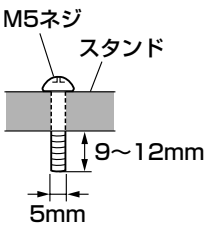
本機は前面のグリルネットを取り外すことができます。グリルネットを付けたり、外したりするときは、次のように行ってください。

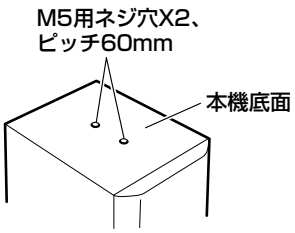
1. グリルネットの下側を両手で持ち、手前に軽く引っ張り、グリルネットの下側を外します。
2. 同じようにグリルネットの上側を手前に引っ張ると、グリルネットは本体から外れます。
3. 取り付けるときは、グリルネットの四隅にある突起部を本体のグリルネットホルダーに合わせて押し込みます。



設置について

■市販のスタンドを使って固定するには
市販のスタンドを使用する場合、落下防止のため、スピーカー底面のネジ穴で固定することができます。取り付け方法については、ご使用になるスタンドの説明書をご覧ください。スタンドに取り付けるときは、スタンドや金具の厚みを考慮して有効ネジ長が9～12mmのものをご使用ください。





取り扱いについて

■設置する際のご注意

- 本機のキャビネットは木工製品ですので、温度や湿度の極端に高いところや低いところは好ましくありません。直射日光の当たる所や冷暖房器具の近く、湿気の多いところは避けてください。
- 本機は立てた状態で使用されるように設計されておりますので、寝かせたり、傾けたりしないでください。
- スピーカーと設置場所との間は面接触より点接触のほうが一般的によい結果が得られます。またガタツキがあると質の良い低音が得られなくなりますので付属のスペーサーやコインのような金属板を使ってガタツキがなくなるようにしてください。
- 本機の背面部はご使用の状況により、高温になることがあります。カーテンなどの可燃物への接触や、火傷にご注意ください。
- 本機を設置する場合には付属のコルクスペーサーを必ず使用し、塗装部分が、可塑剤（かそざい）＊を含む製品に直接接触しないようにご注意ください。本機の表面を覆っている塗装皮膜は、可塑剤を含む製品に長時間接触していると、色移りしたり色落ちすることがあります。
  これを「可塑剤の移行」と言い、可塑剤を含む製品に長時間接触することで、その製品に含まれている可塑剤が本機の塗装膜を軟化させることによって生じる現象です。
  滑り止めシートやソファーなどは、製品によって可塑剤が含まれている場合があります。本機に接触することで色が移ったり、本機の色が落ちたりするトラブルが起こった場合は保証の対象とはなりません。
  ＊可塑剤とは、ある材料に柔軟性を与えたり、加工しやすくするために添加する物質のことで、主に、塩化ビニール（塩ビ、PVC と言われることもあります。）を中心としたプラスチック製品に用いられます。可塑剤は次のような製品に使用されている場合があります。
    - 合成皮革（ソファー、椅子、テーブルクロス、衣類など）
    - 滑り止めシート
    - 建材（壁紙、床材、天井材など）
    - 電線被覆（家電製品のコード、ケーブル類）
    - フィルム・シート（雑誌や書籍の表装、機器などに使用しているカバーなど）
    - 塗料・接着剤・顔料（ダンボール箱や家具などの合板用）

■お手入れについて

製品の表面は時々柔らかい布でからぶきしてください。汚れがひどいときは、中性洗剤をうすめた液に、柔らかい布を浸し、固く絞って汚れをふき取ったあと乾いた布で仕上げをしてください。固い布や、シンナー、アルコールなど揮発性のものは、ご使用にならないでください。
化学ぞうきんなどをお使いになる場合は、それに添付の注意書きなどをお読みください。
スピーカーのグリルネットにほこりがついたときは、掃除機で吸い取るかブラシをかけるとよくほこりを取ることができます。

■テレビやパソコンとの近接使用について

一般にテレビやパソコンに使用されているブラウン管は、地磁気の影響さえ受けるほどデリケートなものですので、普通のスピーカーを近づけて使用すると、画面に色むらやひずみが発生します。
付属のスピーカーは（社）電子情報技術産業協会の技術基準に適合した防磁設計を施していますので、テレビなどとの近接使用が可能です。ただし、設置のしかたによっては色むらが生じる場合があります。その場合は一度テレビの電源を切り、15分～30分後に再びスイッチを入れてください。テレビの自己消磁機能によって画面への影響が改善されます。その後も色むらが残る場合はスピーカーをテレビから離してください。また、近くに磁石など磁気を発生するものがあると本機との相互作用により、テレビに色むらが発生する場合がありますので設置にご注意ください。

■取り扱い上のご注意

本機は通常の音楽再生では問題ありませんが、次のような特殊な信号が加えられますと、過大電流による焼損断線事故のおそれがありますのでご注意ください。
① FM チューナーが正しく受信していないときのノイズ
② 発振器や電子楽器等の高い周波数成分の音
③ オーディオチェック用 CD などの特殊な信号音
④ マイク使用時のハウリング
⑤ テープレコーダーを早送りしたときの音
⑥ アンプが発振しているとき
⑦ ピンコードなど、接続端子の抜き差し時のショック音

困ったときは

下の表で点検してみてください。接続した他機に原因がある場合もありますので、他機の取扱説明書も参照しながらあわせてご確認ください。

症　状	原　因	処　置
電源が入らない。	• 電源プラグの差し込みが不完全。	• 電源プラグをコンセントにしっかり差し込んでください。(8 ページ)
音が出ない。	• ボリュームツマミが最小になっている。 • 入力ピンコードがはずれている。 • スピーカーコードの接続が不完全。 • ミキシングボリュームツマミの位置が不適切。	• 適当な音量にしてください。(5 ページ) • 入力ピンコードを正しく接続してください。(7 ページ) • スピーカーコードを正しく接続してください。(6 ページ) • 正しい位置にあわせてください。(5 ページ)
音が小さい。	• ミキシングボリュームツマミの位置が不適切。	• 正しい位置にあわせてください。(5 ページ)
片方のスピーカーからしか音が出ない。	• 接続が不完全。 • 入力音源がモノラル音源。	• 入力ピンコードを正しく接続してください。(7 ページ) • スピーカーコードを正しく接続してください。(6 ページ) • モノ→ステレオ変換アダプターを別途用意してください。
ブーンというハム音が入る。	•ピンコードの差し込みが不完全。 • 外部のリーケージフラックス（テレビ等からの誘導雑音)。	• ピンコードをしっかり差し込んでください。(7 ページ) • 雑音源から離してください。

ご注意

低域や高域を極端にブースト（増強）したり、低域や高域が異常に強調された特殊なソースを再生した場合、本来の信号音以外に異常な音を発生する場合があります。これは、故障ではありませんが、このような状態で長時間ご使用になると、スピーカーユニット破損の原因となりますので、音量を下げてご使用ください。

主な仕様

形　　式： Rchアンプ内蔵2ウェイ・バスレフ型
Lch2ウェイ・バスレフ型
定格周波数範囲： 48Hz～100kHz
クロスオーバー周波数： 5kHz
実用最大出力： 11W+11W（4Ω、JEITA）
入力インピーダンス： 10kΩ
入力感度(VOL.MAX 時)： 280mV
キャビネット内容積： 3ℓ
使用スピーカー： ウーファー：10cm OMFコーン型
ツィーター：2cm バランスドーム型
電　　源： AC100V（50/60Hz）
消費電力： 24W
入出力端子： アナログ入力×2 (RCAステレオ)
サブウーファー出力×1 (RCAモノ)
ヘッドホン出力×1 (φ3.5mm/ステレオ)
外形寸法： Rch　123(W)×225(H)×203(D)mm
Lch　123(W)×225(H)×184(D)mm
質　　量： Rch　2.9kg
Lch　1.7kg
そ の 他： 防磁設計（JEITA）
グリルネット脱着可

仕様および外観は、予告なく変更することがあります。

修理について

■保証書

この製品には保証書を別途添付していますので、お買い上げの際にお受け取りください。
所定事項の記入および記載内容をご確認いただき、大切に保管してください。
保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

■調子が悪いときは

意外な操作ミスが故障と思われています。
この取扱説明書をもう一度よくお読みいただき、お調べください。
ホームページにサポート情報(http://www.jp.onkyo.com/support/audiovisual/index.htm)がございますので、そちらもあわせてご確認ください。
また、本機以外の原因も考えられます。ご使用の他のオーディオ製品等もあわせてお調べください。それでもなお異常のあるときは、電源プラグを抜いて修理を依頼してください。
修理を依頼されるときは、次の事項をオンキヨーオーディオコールセンター、または「ご相談窓口・修理窓口のご案内」記載の他の修理窓口までお知らせください。

- ▶ 製品の型番
- ▶ 接続している他機器
- ▶ できるだけ詳しい故障状況
- ▶ ご購入店名
- ▶ ご購入年月日

■保証期間中の修理は

万一、故障や異常が生じたときは、保証書をご用意のうえ、オンキヨー修理窓口またはお買い上げの販売店へご相談ください。詳細は保証書をご覧ください。
販売店の「長期保証」制度にご加入の場合は、販売店様店頭への修理品お持ち込みをお願いいたします。

■保証期間経過後の修理は

オンキヨー修理窓口またはお買い上げ店へご相談ください。修理によって機能が維持できる場合はお客様のご要望により有料修理致します。

■補修用性能部品の保有期間について

本機の補修用性能部品は、製造打ち切り後最大8年間保有しています。性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。保有期間経過後でも、故障箇所によっては修理可能の場合がありますのでオンキヨー修理窓口等へご相談ください。

ご相談窓口・修理窓口のご案内

■ 販売店の「長期保証」制度にご加入の場合は

保証の手続き上、お買い上げになった販売店様での受付けが必要となりますので、この場合は販売店様店頭への修理品お持込みをお願いいたします。

■「引取便サービス」による修理受付け

引取便サービスは弊社指定の配送業者が修理品を引取りに伺うサービスです。引取日時をご指定いただけます。

＜お電話でのお申込み＞

オンキヨーオーディオコールセンター　050-3161-9555
（受付時間：10:00～18:00　土・日・祝日および弊社で定める休業日を除きます）

＜メールでのお申込み＞

http://www.jp.onkyo.com/support/servicebase.htm
（ONKYOホームページの「サポート」→「オーディオ製品のサポート」→
「修理のお手続き」で閲覧可能）

■ お近くの修理拠点へ「持込み」をご希望の場合は

下記のURLにて全国の修理拠点のご案内がございます。お持込みの際には営業日を確認のうえでご訪問いただくようお願いします。

http://www.jp.onkyo.com/support/servicebase.htm
（ONKYOホームページの「サポート」→「オーディオ製品のサポート」→
「修理のお手続き」で閲覧可能）

■ 商品についてのご相談、リモコン等付属パーツ、その他ご不明な点は

下記のオンキヨーオーディオコールセンターへご相談ください

オンキヨーオーディオコールセンター　050-3161-9555
（受付時間：10:00～18:00　土・日・祝日および弊社で定める休業日を除きます）

2013年2月現在　　住所、電話番号、受付時間などは変更になることがございます。

ONKYO

オンキヨー株式会社
〒572-8540　大阪府寝屋川市日新町2-1

製品のご使用方法についてのお問い合わせ先：
オンキヨーオーディオコールセンター
☎ 050-3161-9555（受付時間　10：00～18：00）
（土･日･祝日･弊社の定める休業日を除きます）
サービスとサポートのご案内：http://www.jp.onkyo.com/support/

G1306-2

SN 29401528A

(C) Copyright 2013 Onkyo Corporation Japan. All rights reserved.

29401528A